

「探検」感覚で仲間づくり

三輪まり子さん

三輪まり子さん（65歳）は震災前、富岡町に住んでいました。津波と原発事故に見舞われ、仕事の都合などから夫はいわき市へ、自身は東京都へ、別々に避難することに。

避難生活を送るにつれ、「自然の豊かな場所で土いじりのできる暮らしがしたい」との思いが募りました。富岡に帰る見通しが立たないなか、たまたま地所を持つていた榎葉での生活再建を決意。下小埜大倉平地区に自宅を新築し、2016年7月、避難先から引越しました。いわき市で鉄工所を営む夫と二人で暮らしています。

新居の庭には、ウメやハギなどの花木をはじめ、カエデのような紅葉を楽しめる木、冬でも緑が鮮やかなマツなど常緑の

木々のほか、草花、ハーブ、野菜などを植えています。天気の良い日には、近所の人たちと庭でお茶飲みができるよう、四阿あずまやも造りました。

「私は木々や草花が大好き。榎葉には、広い庭をたくさんの花で彩る家が多いでしょう？そういう庭を見せてもらうのも、私の楽しみのひとつなんですよ」



「ふらっと」で開かれる編み細工づくり教室（左端が三輪さん）





「ふらっと」での元氣アップ教室（左端付近の黒いTシャツの女性が三輪さん）



あいにく家の周辺では帰町はあまり進んでおらず、人影はまばら。「ご近所づきあいは、したくでもできない」状態です。

そこで三輪さんは、あおぞらこども園内に設けられた住民交流サロン「ふらっと」に通い始めました。

ふらっとを会場に開かれる元氣アップ教室や編み細工づくり教室のほか、榎葉まなび館（旧榎葉南小学校）での布草履づくりにも参加。どんどん仲間を増やしていきました。特に庭づくりの好きな人とは、お互いの自宅を訪ね合うことで親交を深めています。

「きれいなお庭があると聞くと、すぐ行っちゃいます。町を巡り歩いていて、すてきなお庭

を見かければ飛び込みで見学をお願いすることもあります。そこでまた仲良しになって草花の株を分け合ったり。すごく楽しいですよ」

そんな日常を、三輪さんは「毎日が探検」と言います。

あちこち行き来するついでに、車の運転ができない仲間の移動の手助けもしています。

「私はこの町の新参者。少しでも早く町を知り、地域に溶け込みたい」

「探検」感覚で各種サロンや趣味・娯楽などのサークルに参加すれば、人と人とのつながりのなかに、新たな世界が広がります。楽しむことも、コミュニケーションづくりの推進力なのです。



榎葉まなび館での布草履づくり（右から2人目が三輪さん）